神奈川県立平塚ろう学校　令和４年度第１回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第１回学校運営協議会
開催期日	令和４年６月３日（金）
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校　多目的ホール
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員９名
次回開催予定日	令和４年 10 月下旬
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　水上 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	（１）　学校運営協議会運営計画について （２）　令和４年度学校経営について （３）　令和４年度不祥事ゼロプログラムについて
審議（会議）経過	（１）　学校運営協議会運営計画について →承認 （２）　令和４年度学校経営について 【質問】 ・学校のミッションに書いてあるが、県内の唯一の聾学校となっているが本当は４校ある。県内唯一ではない。県内唯一ではないが、県内の聴覚障害部門のランドマーク。そういうことの認識をして、核になる位置づけを持つという解釈でよいか？ 【回答】 ・よい。 【質問、意見】 ・新任の先生が来た時に、難聴体験をしているか？自分の子どもが乳幼の時に、難聴体験をした。聞こえないとはこういうことか、と知った。雑音の聞こえるヘッドホンをつけ、その中で研修があった。何かを話している。何も聞こえない。情報のキャッチが遅れ、何々？となる。そこで、なぜ手話が大事なのかを知った。聞こえないということがどういうことなのかを知ったうえで、どうやって教育をしていくのかということを同時進行でやってもらえるとありがたい。 【回答】 ・ゼロ歳から保護者支援をおこなっている。乳幼児相談の時には、聴者の親には、難聴体験をしていただいている。聞こえると思いたい思いのある中で聞こえないということを想像してもらう。教職員向けには十分ではない。地域の先生向けには行っている。今後取り組

	んでいきたい。 【意見】 ・今、保護者のご意見を聞き、本当にそうなのだな。知らないことを知ることができた。自分の子どもは発達障害を持っている。子どもや障害について理解ができなかった。学年が上がり、あれ、と思った。初めて病院にいき、私たちが見ている世界と子どもが見えている世界の違いを知った。ものすごい衝撃だった。それまでの目線が一般的すぎたことを知った。平養、平ろうとつながる中で、すごく大事な要素を学校の中だけで解決させるのではなく、広げることでムーブメントの中心になっていく。そのための運動をしていきたい。 小さな企業だけではできない。この協議会はわかりあい、知恵を出し合う。メディアとして6月の特集として共生社会、インクルーシブについて一言発信する予定になっている。10 万部という少ない数ですが、リリースしていきたい。 【意見】 ・社会全体が障害をもっと理解しないといけないと思っている。難聴体験なんていうものがあることを初めて知った。会社には、飲酒運転撲滅運転のために酔った状態で見える眼鏡がある。体験しないとわからない。難聴体験のようなものも会社で是非セミナーみたいなもので取り組んでみたい。障害者だっていろんなことができるのだということを理解していない。 会社で雇用しているのは知的障害の方。仕事の内容が限定されている。トイレ掃除をしている姿を見て、かわいそうじゃないか、と言ってきた人がいる。彼らはトイレ掃除をしていることは恥ずかしいと思っていない、誇りをもってやっている。理解をしていない発言から、かわいそう、という発言があるのかも。出来ないこと、難しいこと、できること、を理解することができたらもっと変わっていくのかもしれない。 【意見】 ・資料にあるが、公民館で手話教室をやる、ということについて、機会があれば、公民館の事業として組んでいけたらよい。 【意見】 ・初めてこういうことを継続的にやっていたのだと知った。 こういう活動をしていることをどうやって社会に知らせていくのかを考えたい。地域紙や掲示板などの媒体につたえていく？私はすぐに行動したい。今日はここで、ビジョンを聞いた。それとは別に、

	実行部会をたてる、ということも必要。この夏は、卓球の大会があると聞いている。こういう機会を利用してどんどん参加する場面を作り出していくことが必要、平行してこの会議があり、まず行動したい。 【意見】 ・学校が社会にでていくのはありがたい。知るきっかけになる。機会がそもそもない。触れ合う機会を作っていただけるのはありがたい。学校の中、友達、家族だけの社会の集団の中にいるだけではなく、自分を伝える、ということはとても大事。利用者をみていると、ちょっとしたことで諦めてしまう人が多い。自分を出せない人が多くいる。伝わらないなら伝える努力をする。 【意見】 ・社会に積極的にかかわっていただく、という取り組みはありがたい。市長の定例会見には手話通訳がつくことになっている。消防、ネット 119 のアプリ通報をする。市の取り組みを情報提供していく。 【質問】 ・手話通訳士の派遣は、地域に登録している人か？ 【回答】 ・そうです。それができない場合は、県から派遣されている。利用は無料。 【意見】 ・このサービスは障害をお持ちの当事者向けのサービス？ 【回答】 ・校内には手話通訳が３名いる。校内の聾職員の業務に使っている。人数が足りない時には、県のセンターに依頼。有料。当事者ではない人が依頼するときには、有料。子ども達が学習として外に出ていくときやセンターや役所に依頼を出すなどの疑似体験もしている。大学進学をする人は、面接を依頼する時などに申請をしている。 【進行】 ・実行部隊、ムーブメントなど話が出た。学校の経営方針には、承認で良いか。これを持って進めていただきたい。 →承認 （３） 令和４年度不祥事ゼロプログラムについて →承認